

東京の産業と教育

No.156

会の目的

本会は産業界、教育界および行政当局が一体となって相互に連絡協調し、本都における国公私立の中学校、高等学校、高等専門学校、短期大学および専修学校等の産業教育の改善・進歩をはかり、もって産業経済の自立発展に寄与することを目的とする。

次代を担う人材育成に向けて

一般社団法人 東京経営者協会

事業局長兼人事・労働部長兼人材・研修部長

山鼻 恵子



当会は、前身の日本経営者団体連盟時代から人材育成、産学連携に積極的に取り組んできた。現在は、大学や専門学校と企業の連携を目指した交流会、大学のキャリア教育の一助としていただいている「企業人による出前講義」「働く現場見学会」等を行っている。また、大学関係者のトップと当会の役員による懇談会も定期的に行っており、お互いの課題を共有することで、更なる理解を深め、有為な人材育成を行ってきた。

今年度も、会員大学の学生や教職員の方々が中堅・中小企業の魅力に気づく機会の提供を目的とした「働く現場見学会」、企業人による会員大学への出前講義、会員企業の採用担当者と関東圏を中心とした大学就職担当者との産学交流会、ビジネスマナーや社会人の基本的な心構えなどを実践的に学ぶ新入社員合同研修会を開催する等学生から社会人への円滑な移行に資する事業を実施する予定である。

さて、当会が傘下になっている経団連では「Society 5.0 for SDGs」を掲げ、新たな時代に向かっていく。技術革新を基盤に「想像(イマジネーション)」と「創造(クリエイション)」の二つの「ソウゾウ」で人間中心の社会を作るための変革を促している。そのためには、デジタルトランスフォーメーション、を展開し、経済の力強い成長、国民生活の利便性向上、ヒト、モノ、カネの効率的配分の実現と社会課

題の解決を通じ、持続可能な開発目標を達成していくとしている。課題としてあげているもの全ての根底にあるのが「人材」である。

技術革新・進歩によりAI(人口知能)やRPA(ロボティック・プロセス・オートメーション)が登場し、実用化が進むのを受け、イギリスのオックスフォード大学から、「近い将来9割の仕事が機械に置き換えられる」、野村総合研究所からは「これから15年で今ある仕事の49%が消滅する」等の研究成果の発表が相次ぎ、先が読めない時代に入っていることを実感させられる。このような大学やシンクタンク等の調査研究はいろいろあるが、今ある仕事が無くなったり、置き換えられたりするだけであって、仕事そのものがなくなると言っているわけではない。これから仕事に就こうとする人も、すでに就職している人も、次の10年、20年に必要とされる技術、知識は何かを考え、自ら獲得していかなければならないことは確かである。必要とされるものが何かは分からない中、努力をしなければならないのはとても厳しいことではあるが、過去や既存の価値観にとらわれない柔軟な思考と対応力が必要とされていく。自分自身を知り、世の中の流れをつかみ、学んだものを現場でいかに活かしていくかという新たな能力開発が鍵となる。そのために、産業界・教育界のより一層の連携は不可欠であり、東京都産業教育振興会の諸事業の意義が増してくると信じている。



〈実践報告〉

企業と学校をつなぐ

東京商工会議所
人材・能力開発部 人材支援センター

所長 山崎 幹人

商工会議所は、「商工会議所法」に基づく地域総合経済団体であり、地区内の商工業者を会員として、商工業の発展や社会一般の福祉の増進に資することを目的に活動しています。全国には、北海道から沖縄まで515の商工会議所があり、会員数は125万を数えています。東京23区を管轄する東京商工会議所（以下、「東商」）は、1878年に創設され、現在、約8万件の会員で構成されており、その多くが中小企業・個人事業主です。また、各区にはそれぞれ「支部」を設置し、地域の活動をサポートしています（会員数はいずれも2018年3月末現在）。

東商のミッションは、「会員企業の繁栄」、「首都・東京の発展」、「日本経済の発展」の3点であり、活動内容としては、国や東京都などへの「政策提言活動」をはじめ、企業経営の課題を解決するための「経営支援活動」、「地域振興活動」などを展開しています。

このような中で東商は、教育機関と連携した若年者就労支援や産業人材の確保・育成の重要性に鑑み「若者・産業人材育成委員会」を設置しています。同委員会では、職業教育をはじめとした学校教育の在り方について検討し、現状と課題を踏まえ、東商ならではの事業を企画・運営しています。例えば、大学1・2年生向けに提供している「東商リレーションプログラム」は、早い段階で学生の職業観を醸成し、卒業後の進路の参考にしてもらうものです。

2018年、東商は新ビルの竣工とともに創立140周年を迎え、各種の記念事業を実施いたしました。その一環として、同委員会によるイニシアティブのもと、高校生など若い世代への商工会議所の見える化活動を展開しました。具体的には、東京都教育委員会や東京都産業教育振興会とも連携の上、区内に立地する都立の商業高校・工業高校の生徒に対するキャリア教育を東商が支援するものとし、東商会員企業による「生徒のインターンシップ受入」「社会人講師による生徒への

講話」を実施しました。教育委員会の協力のもと、校長会を通じて各校へ連携を打診し、学校ごとのニーズを踏まえ、学校が所在する区の支部が中心となって取り組んでまいりました。結果として、2019年3月までにインターンシップでは275社が受入れ、講話においては43名の社会人講師が教壇に立ちました。連携した学校を見ますと、インターンシップでは11校（受入れ生徒数534名）、講話では8校（聴講生徒数1,706名）となります。また、「名探偵コナン」とコラボした『まんがでわかる東京商工会議所』を作成し、対象生徒へ配付させていただきました。

インターンシップを実践した高校

第四商業、葛飾商業、第三商業、総合工科、中野工業、杉並工業、練馬工業、工芸、蔵前工業、荒川工業、足立工業

社会人講師による講話を実施した高校

第一商業、第四商業、第三商業、荒川商業、練馬工業、荒川工業、足立工業、六郷工科

取組を通じ、生徒たちは、仕事の現場に足を運ぶことでアルバイトでは得られない体験をしたり、講話を通じて「社会人として働くということ」や地場産業の魅力について知ってもらう機会となりました。東商にとっては、各支部が地元の高校を支援・連携することで東商全体としてキャリア教育を推進していく気運が醸成されたほか、学生の受入や講師を務めた会員企業にとっても、これまで接点の無かった高校に自社の魅力を発信することに繋がり、大変有意義な取組となりました。

今後は、地域間の連携を拡大しつつ、新たに東商青年部による講話協力や農業系高校との連携など、創立140周年で築いた産学連携の礎を150周年につなぐべく、引き続きキャリア教育支援を行っていきたいと考えています。

地方創生を視点としたビジネス教育

東京都立芝商業高等学校

校長 林 修



1 はじめに

創立95周年を迎えた本校は、現在、「商業教育検討委員会報告書(平成29年2月、東京都教育委員会)」により示されたビジネスを実地に学ぶ商業教育の改革に向けた取組の先行実施校として、学校設定科目「ビジネスアイデア」のカリキュラム開発等に取り組み、その内容を都内商業高校等に対し広く普及啓発しています。また、本校の周辺では東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けて大規模な再開発プロジェクトが進行しており、実践的・体験的にビジネスを学習する上で非常に恵まれた環境にあります。

2 福井県池田町との交流について

本校はこのような立地条件を生かした特色あるビジネス教育を行うとともに、平成26年度からは福井県今立郡池田町との交流を行い、農村地域のコミュニティとの触れ合いを通じて地域の活性化に向けた高校生ならではの活動を展開しています。平成28年度には都市と農村の新たな連携と発展に向け「芝商いけだキャンパス共同事業」の調印式を行い、生徒は同町を学びのフィールドとして地域社会との関わりを学習しています。

平成30年度は夏と冬の2回にわたり生徒が同町を訪問し地域資源を生かした活動に取り組みました。7月31日(火)～8月2日(木)には、模擬株式会社芝翔の3年生4名が同町に伝わる能楽文化を広報・宣伝するために「お面作り」を企画し、同町の冒険体験施設「ツリーピクニックアドベンチャーいけだ」で体験会を開催しました。お面には同町の豊富な森林資源をPRするためにおがくずをリサイクルした粘土を使用するなど工夫を凝らし、来場した家族連れに対して人やキツネなどの無地のお面に色を塗る方法を説明しました。子供達との会話を楽しみながらお面作りを手伝った生徒は「その土地のことを好きになることから地域の活性化は始まる。」と実感したようです。

2月9日(土)～11日(月)には、放送部の生徒8名が冬でも外で楽しく過ごす機会を町民の方に提供するために角間郷冬まつり「雪灯華(せつとうか)」を企画し、同町の新保スキー場で開催しまし



た。昨年冬に開催予定であったこのイベントは大雪のため中止となりましたが、今回は角間郷地区の方々と協力して準備を進め、雪の中の「宝探し」や雪の塊を積み上げる「イグルー(かまくら)作り」、イルミネーションや花火など盛りだくさんの企画に町外からも多くの方が来場しました。生徒は「自分達だけでは実現できなかった。地元の方のお陰で実現できた。」と感じたようです。



このように生徒は日頃の授業で学習する商業科目「商品開発」や「マーケティング」等での学習を生かし、地方創生という視点で実践的・体験的にビジネス教育を学習しています。

3 おわりに

本校は今後も池田町との交流の中で調査研究やフィールドワーク、商品やサービスの開発といった学習を行い、商業高校としてのビジネス教育を通してこれからの社会で必要とされる「創造的な力」と「実践的な態度」を育成していきます。

私は、自身の幼稚園時代の教諭への憧れと保育者である母親の影響もあり、幼い頃から自然と保育者を目指すようになりましたが、高校生になった頃命を預かるという責任のある仕事が本当に私に勤まるのだろうかといった不安から、一度夢は諦め、進学はせず数年接客業を経験しました。仕事をしている中で子どもと接することが多々あり、子どもからの「ありがとう」や笑顔を見る度に保育者になりたいという思いは再び膨らんでいき、2年間で保育士・幼稚園教諭免許が取得できる愛国学園保育専門学校へ入学しました。

座学では保育の基礎的な知識や発達段階、子どもにとっての遊びや環境、言葉や人間関係というのはどのような意味を持つのかといったことを学んでいきます。又、手遊びや絵本、紙芝居の読み聞かせといった保育技術を自分自身で実践し、保育の現場へ立った際に役に立つ知識を得ることのできる貴重な学びが沢山あります。

今年の2月には初めての保育実習を経験し、そこで子どもの発達段階に沿った援助の仕方や、言葉の掛け方等、保育の実際をより深く学ぶことができるように一日一日目標を持って取り組みました。取り組んでいく中で、毎日のように反省点が生じましたが、反省点は実習日誌に残しながら毎日振り返りを行うことで、翌日の実習への目標が明確になっていきました。その目標を達成できるよう積極的に取り組むことで、実践でしか得ることのできない学びを経験することができ、有意義な実習となっていくのだと感じました。私が実習中に反省点となった1つは、子どもへの言葉の掛け方でした。年齢によって伝え方を変えながら、子どもがその言葉を理解できるように伝えていくこと、正しい言葉で伝えていくことが重要です。私たちが当たり前のように話している言葉ですが、子どもへの言葉の伝え方には難しさを感じました。保育者を目指す者として、日常で何気なく話している言葉を見直すこと、子どもの前に立った時には大人として在るべき姿でいること、保育者は子どもたちの見本とならなければいけないと考えていますので、尚更意識をすることが大切なのだと思います。実習を通して学んだことは沢

山ありますが、このことは自分自身を見直すこともでき、保育者として大人としてどう在るべきか実際に子どもと関わっていく中で学ぶことができ、本当に貴重な経験をさせて頂きました。又、実習中は辛いことも沢山ありました。特に実習日誌は正直本当に大変でしたが、その日のことを振り返りながら毎日一生懸命書いた実習日誌には、学び、反省、経験、成長、努力が書かれています。それを実習最終日に読み返し、真っ白だった実習日誌が文字で一杯になったのを見た時、この冊子はこれからの宝となっていくのだろうということ、辛い経験も必ず自分の成長へと繋がっていくのだということを実感しました。



一度社会に出てから夢を目指すにはもう遅いのではないかといった思いや、学校生活への不安も沢山ありましたが、この1年間での学びや経験、学校生活を通してそのような気持ちはみじんもなくなりました。それは、同じ夢を目指す仲間がいることの心強さとその中で学ぶことの楽しさ、悩んだ時には優しく相談にのってくださる先生方の存在があることで、不安な気持ちが消え充実した学生生活を過ごすことができているからだ実感しています。そして、改めて保育者になりたいという気持ちを強いものにしてくれた仲間と先生方には本当に感謝の気持ちで一杯です。

これからも実習は続きます。学校生活も、課題やレポートが多くなり段々と忙しくなっていきます。その分、辛いことや思い悩むこともあると思いますが、人として大切なこと、挨拶、笑顔、そして感謝の気持ちを忘れずにこれからも精一杯頑張っていきたいと思っています。

私の都市工学科紹介

東京都立田無工業高等学校
都市工学科2年 桜井 敬

都市工学科では、私たちの日常生活を支える、上下水道・道路・鉄道をはじめとした生活基盤を建設し、豊かで安全な都市を計画するためさまざまな実習を行っています。



測量の実習

建設工事や土木工事では、基準にする標高や水平角、水平距離を器械で算出する必要があります。この作業を「測量」と言います。

測量の理論や測量器機の扱い方を学ぶために現地測量の実習を行っています。



重機操作の実習

土木工事で実際に使用している重機を用いての実習を行っています。操作はとても難しく、少しの実習で、マスターすることはできませんが、現場がイメージできる実習として、とても人気があります。



企業との連携を深めた実習

授業の一環で、企業に依頼し、本校周辺の歩道を「インターロッキング」で施工しました。実際の現場同様、専門的な知識や施工方法をご指導頂き、現場雰囲気も体験できました。

歩道が仕上がるまで、いくつもの工程から成り立っていて、施工の難しさを知りました。



現場見学会(白子川調整池)

年に数回現場見学会を行っています。白子川調整池は、雨水の地下浸透による都市型水害を防ぐために建設されています。計画から完成までの歳月が長く、土木工事のスケールの大きさにただ驚くばかりです。

私も将来は、多くの人々を災害から守り、安心して暮らせる生活基盤を建設できるよう、少しずつ前へ進んでいきたいと思っています。

私は現在、東京実業高等学校電気科ゲームITコースで学んでいます。ゲームITコースと聞くと、専門学校のようなイメージをもたれる方が多いかもしれませんが、高等学校の電気科にあるコースです。専門的な授業、実習の他に一般教科も大学進学に考慮されており、専門知識も得られ、また大学進学も目指せる一石二鳥のコースです。

最初に、このコースの特徴から説明していきます。このゲームITコースというのは、ゲームプログラム制作を通じて、プログラムや情報技術の基礎を学び、高校卒業後はさらに高度な専門知識を習得するため大学進学を目指すコースで、東日本にある高校の中で、東京実業高校にしかない唯一のコースです。また、9月に行われる「東京ゲームショー」に毎年出展しており、3年生の時に授業で制作するオリジナルゲームの発表をしています。高校でブースを出展しているのは東京実業高校が唯一です。このとおり、「唯一」といえるものを数多く持っているコースとなっています。

しかし、特徴はこれだけではありません。このコースには同じ趣味の人がとても多く、頑張らなくても話が合うし、一クラス編成なので、3年間クラス替えがありません。そのおかげで、クラス全員と友達になれるので、とても充実した実りの多い学校生活を築いていけます。友達を作るのが苦手だという方も大丈夫です。気づいたらクラスみんなが良き友人になっています。

次に、3年間での主な授業内容を説明します。1年次では、C言語でプログラミングの基礎を学び、情報技術検定の取得を目指します。2年次ではその知識を活用して「Visual Studio」を用いたシューティングゲームの制作、「Metasequoia」を使った3DCGモデル制作を行います。3年次は、高校で学んだことの集大成として、東京ゲームショー出展に向けたゲーム制作を行っています。また、ソフトウェア以外にも、ハードウェアに関する知識習得にも力を入れ

ており、論理回路実習やパソコンの組立て、メカトロニクス実習などにも取り組んでいます。

最後に、資格についてお話しします。ゲームITコースでは、情報技術検定、計算技術検定、実用数学技能検定、実用英語技能検定の全員取得を目指しています。また、国家資格でもある「基本情報技術者」や「ITパスポート」を取得した先輩方も多くいます。そして、電気科ということもあり、「第二種電気工事士」「第一種電気工事士」の取得も可能で、ゲームITコースからも多くの合格者が出ています。

このように、数多くの魅力があり、とても充実した学校生活を送れるこのコースで、私はゲームクリエイターを目指しながら日々奔走しています。勉学にも力を入れつつ、部活動でも多くの仲間とともに活動中です。また、上記したとおり、9月に行われる東京ゲームショーに向けて、私も仲間と共にゲームを制作しておりますので、お時間があつたら是非ご覧ください。応援よろしく願いいたします。



明和製紙原料株式会社

代表取締役：駒津 慎

千代田区永田町 2-17-17

TEL 03-5501-4777

< 事業内容 >

【機密書類回収溶解サービス [けすぶろ]】

廃棄処理の決まった機密書類の回収、処理、処理証明書の発行までを、連絡した当日中に完了するサービスです。即日対応により、保管期間がなく情報漏えいのリスクを減らすことができます。

【利点】

- ・分別が不要。バインダーやファイルから外すなどの作業がいらない。
- ・シュレッダー作業とそれに伴う紙片の清掃が不要。
- ・段ボール箱は一切開封されずに処理される。
- ・機密書類回収専用車による運搬。
- ・専門製紙工場で溶解処理。
- ・当日中に溶解処理証明書が発行される。

< 経営理念 >

「いつか道になる」

歩くべき道を作る。歩きたい道を作る。きっと道にする。私たちは、まだ存在はしていないけれど、無くてはならないスタンダードを作ることを目指します。それは「やり方」であり、「基準」であり、「定番」です。それを「道」と呼びます。

その道がないことが想像できないくらい日常に溶け込んだ便利で安全な道です。よりよい社会に導く道、健やかな暮らしを実現するための道。私たちは日々、そんなスタンダードを作り続けます。

< メッセージ >

社会情勢はこの数年で大きく変わっています。これからの可能性を信じ、より多くの人々、より多くの地域へ貢献していくことが我々の使命です。「丁寧に」仕事をすることでお客様へ安心を届ける企業であるとともに、新たな「道」を作るべく、日々成長し、いつまでも挑戦し続ける企業でありたいと考えています。



【機密書類回収専用車両】

令和元年度産業界は



50社(団体)でスタートしました

当社は 1947 年に電気通信コネクタを中心とした電気通信部品の製造販売メーカーとして発足しました。光コネクタのパイオニアメーカーのひとつです。「誠実・努力・変革・道自ずから通ず」を社是とし、全社一丸となって社業の発展に努めています。

光コネクタ製品群を日本及び海外のお客様に提供しており、現代社会の高度情報化発展に寄与現代社会の高度情報化の発展に寄与しています。光デバイス製品群は信頼性の高さから、近年、東海道新幹線等の通信以外の分野でもお引き立ていただいております。

【「MPO パッチパネル&

カセットモジュール」という、カ

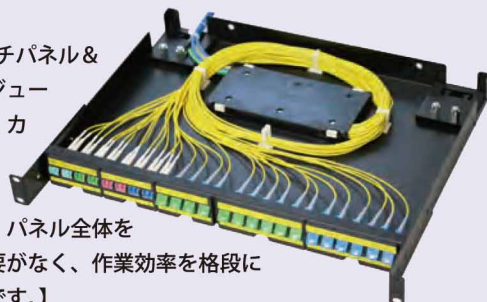
セット単位

での交換が

可能なため、パネル全体を

取り外す必要がなく、作業効率を格段に

上げる製品です。】



今後も通信技術の革新が進んでいく中で、当社のコアコンピタンスを活かして、色々な業界で世界中のお客様のニーズに寄り添う形で、時代をリードする製品を開発・提供していきます。

当社会長・石井卓爾は、文部科学大臣表彰（2013年・科学技術賞技術部門）に引き続き、今年5月、商工会議所・業界・事業の発展に尽くした功績を評価され、旭日中綬章を受章いたしました。産業教育振興会の皆様に御指導、御支援をいただいたお蔭と感謝しております。



【「光トランシーバー」という、光の01信号と電気の01信号を相互に変換する部品で、東海道新幹線などに使われています。】

三和電気工業株式会社

代表取締役社長 石井 保雄

中野区中野 4-15-9

TEL:03-5213-3035 FAX:03-5213-3041

学校法人 立志舎 東京法律専門学校

〒130-8565 墨田区錦糸 1-2-1
理事長 小西 信哉 校長 富田 修次
TEL : 03-3624-5441 FAX : 03-3625-4301

公務員・資格・就職につよい名門専門学校です。1983年日本の専門学校で最初の公務員学科をつくった伝統が今も十分に発揮されています。本校の最大の特色は、高校卒業生対象の専門課程から国家公務員総合職・一般職（大卒程度）・地方公務員上・中級に毎年多くの現役合格者を輩出していることです。また司法試験においては1994年に史上初の専門学校生現役合格者、他にも宅地建物取引士・行政書士等多くの現役合格者を輩出しています。2019年3月高校卒業生対象の専門課程卒業生の公務員合格実績は、国家公務員総合職・一般職（大卒程度）・地方公務員上級・中級等現役合格961名、公務員初級等現役合格5629名、警察官・消防官・自衛官現役合格3926名等（1次筆記合格のべ）を誇ります。

その理由は、開学からずっと実施している「ゼミ学習」にあります。ゼミ学習とは、アクティブラーニングの最先端を行く学習方法で、学生同士がお互いに教えあうことにより、楽しい雰囲気の中



中で学習意欲がわき、理解がすすみ、実力がつくのはもちろんコミュニケーション能力、表現力、リーダーシップ能力も身につきます。さらには、自然にいろいろな人と友人になることができます。学校生活では在学生在が充実したキャンパスライフを過ごせるよう、イベントが多く、またクラブ活動も盛んです。勉強に遊びにメリハリをつけながら、充実した学校生活を送ることができます。

令和元年度、会員専修学校は

新会員校の紹介

35校でスタートしました

ゼロからはじめてプロになる®
「産学連携」「官学連携」課題を
クリエイティブの力で解決する
実践重視の美術専門学校

● クリエイティブを仕事に活かす「実学」中心の授業編成

御茶の水美術専門学校（OCHABI）は、文部科学省より「職業実践専門課程」の認定を全学科が受けています。OCHABIの特徴でもある産官学連携授業では、実在の企業や行政機関の連携パートナーと共にアートによる課題発見、デザインによる課題解決を通じて、何が問題で何が解答かわからない「ゼロ」からSDGs（持続可能な開発目標）に貢献し得る商品やサービスをクリエイティブ（創造）する術を学びます。このようなクリエイティブの思考法はOCHABI独自の「デザインアート思考」によって整理され、入学から卒業まで繰り返し実社会とコミュニケーションを取る事で、効果的に自分のクリエイティビティー（創造性）をビジネススキルへと変換していきます。

● 産学連携、官学連携授業で実践的なビジネススキルを学ぶ

御茶の水美術専門学校（OCHABI）では、産官学連携授業を全学年の必修科目と位置づけ、その成果発表会を春夏秋冬年間4回行っています。ここではクライアント（依頼主）と呼ばれる企業や行政機関の関係者と学生との意見交換がライブで行われ、この授業を通じて連携パートナーである企業の考え方やマーケティングを知り、実際に社会人と連絡を取る事でビジネスメールの書き方、事務所を訪問しヒアリングを行う事でビジネスマナーを学びます。こうして実社会で必要なコミュニケーション能力や自分の考えを的確に伝えるプレゼンテーション能力など、就職活動や起業活動、あるいはフリーランスで役立つ多くの能力を実地で身につけていきます。



学校法人 服部学園 御茶の水美術専門学校

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-3
理事長 服部 浩美
TEL : 03-3291-7400 FAX : 03-3293-8737



総 会

令和元年度総会及び講演会が6月27日(木)全商会館において開催されました。

来賓に公益財団法人産業教育振興中央会専務理事の富岡逸郎様、東京都公立高等学校長協会商業部会長の高石公一様、東京都中学校長会副会長の花田茂様をお迎えし、議事が進められました。

はじめに、5月9日の理事会で選任された会長、副会長の選任結果と理事長、常任理事、常任監事について、次のとおり報告がありました。

会 長 西澤 宏繁

(日本リスク・データバンク株式会社取締役監査等委員会委員長)

副 会 長 金子 昌男

(株式会社カナック企画 相談役)

副 会 長 小林 治彦

(東京商工会議所理事・事務局長)

副 会 長 小堀 紀明

(東京都立農芸高等学校長)

理 事 長 中井 敬三

(東京都教育委員会教育長)

常任理事 江藤 巧

(東京都教育庁都立学校教育部長)

常任理事 落合 真人

(東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課長)

常任幹事 甲賀 一紀

(東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課課長代理)

次に、以下の議案が提案され、審議の結果、全議案とも原案とおり承認されました。

第1号議案 平成30年度 事業報告(案)

第2号議案 平成30年度 決算書(案)

第3号議案 平成30年度 監査報告

第4号議案 令和元年度 東京都産業教育振興会役員(案)

第5-1号議案 令和元年度 事業計画(案)

第5-2号議案 今後の東京の産業教育に関する報告書作成について

第6号議案 令和元年度 予算書(案)

令和元年度は、研究助成、作文コンクール、生徒表彰、功労表彰、後援事業などの振興奨励事業や会報、会誌、生徒作文集の発行、ホームページによる情報発信などの情報連絡事業は継続しつつ、産学懇談会の年3回開催、東京都産業教育振興会のロゴマーク作成を会員校の学生・高校生対象に作品募集をするなど、新たな取り組みも計画しています。

産業界会員功労者(永年会員)表彰は、株式会社鈴木塗装工務店1社です。

【理事長の交代について】

7月1日、東京都教育委員会教育長に藤田裕司が就任し、理事長が交代いたしました。



講演 会

総会に引き続き講演会が開催されました。

講演は、経済産業省商務・サービスグループ サービス政策課長(併)教育産業室長浅野大介氏を講師として、「Society 5.0 時代の『未来の教室』』という演題で行われました。講演内容については、3月上旬発行予定の会誌「東京の産業教育第57号」にて紹介いたします。

新会員情報 155号(平成30年12月3日)発行以降～6月10日



産 業 界 株式会社開倫塾

専修学校 専門学校日本ホテルスクール ハリウッド美容専門学校

日本美容専門学校 専門学校東京テクニカルカレッジ

中 学 校 新島村教育委員会 新島中学校 式根島中学校

神津村教育委員会 神津中学校

i n f o r m a t i o n

募 東京都産業教育振興会
ロゴマーク募集

本年度、東京都産業教育振興会の活動を広く社会に発信し、産業教育の発展を図っていくために、「ロゴマーク」を募集します。「産業界、教育界、行政の連携協力」、「つなぐ」、「未来」、「働く」などがイメージできるものです。

募集期間 7月1日(月)～9月30日(月)

応募資格 応募資格は(1)、(2)の両方を満たすもの

- (1) 会員校の高校生・学生
- (2) 個人又は数名程度のグループ

応募要件(概要)

詳しくは募集要項でご確認ください。

- ・募集の趣旨、キーワードに沿ったもの
- ・応募作品は、1人(1グループ)1点
- ・最優秀賞(採用作品)は、東京都産業教育振興会の広報や諸活動に使用します。
- ・イメージカラーは「明るめの緑色」

応募方法

- 1 応募用紙(A4用紙 2枚)
 - ①様式1 「ロゴマーク」のカラー及び白黒印刷
 - ②様式2 作成グループの学校名・氏名・作品のコンセプト・色指定表など
- 2 提出データ(CD-R又はDVD-R)
 - ①「ロゴマーク」作品
 - ②「ロゴマーク」関連事項データ

募 令和元年度
「作文コンクール」作品募集

主催 東京都産業教育振興会

後援 東京商工会議所

応募資格 会員校に在籍する生徒・学生が対象となります。

作文内容 中学校技術・家庭科や専門教科の学習、または勤労にかかわる体験的な学習を通して、人生観・職業観、自己の将来に対する考え方や心構え等について述べたもの。

応募締切 9月13日(金)

表彰式 12月中旬

入選作品は、「明日に生きる」第30号に掲載します。

**告** 全国産業教育フェア
新潟大会

全国産業教育フェアとは、文部科学省が、都道府県教育委員会、産業教育振興中央会等の連携・協力を得て、専門高校等の生徒の学習成果を総合的に発表する全国的な規模の事業で、本年度は新潟県での開催です。

期日 令和元年10月26日(土)・27日(日)

会場 朱鷺メッセ アオーレ長岡 他

告 第20回全国中学生
創造ものづくり
教育フェア

生徒たちの生き生きとした姿や作品を通して、技術・家庭科という教科を広く社会にアピールできる場となっています。

期日 令和2年1月25日(土)・26日(日)

会場 エル・ソフィア、足立区立第九中学校、女子栄養大学 他

事 事務局より

令和元年度「会報」第156号をお届けいたします。会報の編集、発行に際してご協力いただきました皆様に深く感謝申し上げますとともに、厚く御礼申し上げます。

●東京都の産業教育をさらに飛躍させるために、情報等をお知らせしています。会員の皆様からのご感想、ご意見などをお寄せください。

●会員の募集は随時行っております。

●ロゴマーク募集要項、作文コンクール募集要項などは、ホームページからご覧になれます。

都産振 で検索、あるいは

東京都産業教育振興会ホームページアドレス

<http://www.tosanshin.org/>

発行 東京都産業教育振興会

〒163-8001 東京都新宿区西新宿2-8-1

東京都教育庁都立学校教育部

高等学校教育課内

電話 03-5320-6729 FAX03-5388-1727

印刷 株式会社 小葉印刷所